

平成30年10月16日(火) No.430

からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校



# 里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年175名 2年179名 3年156名

<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/sato-j/>

## 「迷って、悩んで、それでも続ける」

校長 高田 晶子

平成30年度の市民体育祭では、保護者の皆様には会場での多くの声援をいただきありがとうございました。新チームになっての最初の公式戦でした。それぞれの種目、春に向けて期待も高まります。

また、10月13日(土)に学校公開を開催しましたところ、多くの保護者の皆様に参観していただきましたことに感謝申し上げます。そして、今年度は生徒と地域を結ぶ手掛かりとして、「自治会集会」を実施いたしました。自治会長さんにお話をいただくなど、自分を取り巻く地域の生活について考える良い時間になったと思います。ありがとうございました。



さて、この時期は一年間の中でスポーツに文化に最も表彰が多い季節です。里中学校でも、様々な分野での活躍の結果が報告されています。

第103回書教展において文部科学大臣奨励賞を受賞した上出のどかさんのことばを紹介したいと思います。

小学一年生の時、祖母と書道教室に通い始めたのが私と書道の出会いでした。左利きの私は慣れない右手で筆を持つこと、硬筆を書くことに大変難儀していましたが、練習を積み重ね、自信を持ち右手で書くことができるようになりました。休まずお稽古を続ける中、席書大会に参加させていただくようになりました。とても大きな筆で自分の身長よりも大きな紙に、お手本もよく見ずなんとなく書いていたことを思い出します。

ただ楽しく書いていた小学生の時とは違い、中学生になると書道に対する意識が少しずつ高まっていきました。中学一年生の時には大会当日の朝、四十度近い高熱が出て、それでも参加を諦めたくなく、開始直前に会場入りし作品を書き上げました。その作品が高く評価され諦めず頑張ったととても嬉しく思いました。中学2年の時には、部活動の大会と席書大会が重なり、一試合出てから席書大会へ向かい、書き終わるとまた、試合に戻りました。悔しくて泣くことも度々ありましたが、書道は私に沢山のことを学ばせてくれました。

闇雲な努力では決して報われることばかりではないということ。自ら考え、筆を持ち続けることの大切さ。そして、その努力は必ず実るということ。時間がかかっても諦めない粘り強さ。苦しい時こそ踏ん張り、耐え抜く力。その先にある大きな喜び。書道と出会ったことは、私の人生のかけがえのない宝物です。

何かを続けていると、途中で色々なことが起こります。そのようなことを経験している人も多いことでしょう。中学生のもつ無限の可能性を大いに発揮し、迷っても、悩んでも続けていけるものに出会ってほしいと切に思います。